

経営協議会の学外委員からの意見を法人運営の改善に活用した主な取組事例 (平成28年度)

平成28年度の経営協議会において、学外委員からの意見を法人運営の改善に活用した主な取組事例は下記のとおりである。

記

- S Pレコードを活用し、世の中へ発信・展開してほしい。
(平成28年6月10日 第57回経営協議会)

(クラウドファンディングを活用したS Pレコード保存プロジェクトの成功)

附属図書館に平成25年度遺贈された、世界的S Pレコード研究家クリストファ・N・野澤氏の収集した2万枚のクラシックS Pレコードについては、助成団体から助成金を得、これまで毎年4回程度の蓄音機によるコンサートを開催してきたところであるが、資金難の影響により、コレクションの大部分は未整理のままであり、また保存状態も悪く、一部のレコードの利用にとどまり、コレクション全体を活用した発信・展開を行えていなかった。

そこで、インターネットやSNSを利用することで、事業内容を広く社会に発信するとともに、寄附支援を募ることが出来る新しい資金調達方法である「クラウドファンディング」に着目し、S Pレコード保存のためのクラウドファンディングを平成28年12月から実施した。

当初目標金額を5,000千円としていたが、事業の文化的意義など情報の発信等に努めた結果、目標額を大きく上回る7,190千円を獲得するに至った。これにより、S Pレコード保存・整理を実施しつつ、S Pレコードを活用した音楽芸術の発信を推進していくこととしている。

- 東京藝術大学として世の中に対して様々な活動・取組が発信されているが、極めて大事であるので、引き続き力を注いで欲しい。
(平成28年10月27日 第58回経営協議会)
- もっと、テレビ、新聞にアピールすることも必要。
(平成28年6月10日 第57回経営協議会)

(教育研究成果の積極的な発信や報道メディア等を活用した情報の発信)

平成28年度においては、大学美術館、奏楽堂をはじめ、学内の展示スペース、ホール等において、本学の教育研究成果を広く一般に公開するとともに、学外においても、数多くの展覧会、演奏会、上映会、芸術祭、アートプロジェクト、学会等において、本学の取組を広く社会に向けて発信した。

また、海外においても、フランス・パリや、アメリカ・シカゴといった地において、展覧会、演奏会等を実施している。

平成29年度においても、藝大フィルハーモニア管弦楽団によるチリ公演等、引き続き、学内に留まらず、国内外において教育研究成果を積極的に発信し、芸術による社会貢献活動を展開していくこととしている。

また、クラウドファンディング・サービス会社と提携した全学的なクラウドファンディング・プロジェクトの実施や、東京藝術大学130周年記念事業等については、社会的関心が高いことを鑑み、学内においてプレス発表を行った。報道各社に対し、主旨や事業内容を直接説明したことで、複数の新聞等メディアに掲載され、広く社会に対し本学の取組をアピールすることとなった。

○ 早期教育等の各県に行き、美術・音楽等が若手の発掘等を行っていることについて、地方においても藝大を核としたネットワーク作り・連携を引き続き広げて欲しい。2020東京オリンピックを控えて文化・芸術において、非常にいいチャンスであるので、目に見える形で発信していただきたい。

(平成28年10月27日 第58回経営協議会)

(芸術系大学コンソーシアムの設立、被災地域等におけるアーツプロジェクトの実践)

2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける文化プログラムの実行を見据え、我が国の芸術文化の振興・持続的な発展や、国際展開等を推進するため、大学の枠を超えた連携・協力により、各大学の特色を活かした芸術実践活動や人材育成共同プログラム等をダイナミックに展開することを目的に、平成28年7月「芸術系大学コンソーシアム」を本学主導により新たに設立した(加盟大学:56大学)。本コンソーシアムでは、特設ウェブサイトを構築し、各大学の特色や取組等の情報発信を行うとともに、文化庁とも連携し、「文化芸術アソシエイツ育成プログラム」事業として、カリキュラム開発やプログラム研修会を開催した。

同研修会では、芸術系大学連携による「アーツプロジェクト」を実施し、宮城県気仙沼市及び熊本県熊本市において、各地域の教育委員会等と連携しながら、地元の小中学生を対象とした楽器の実技指導や美術作品制作補助を行ったほか、若手芸術家と被災地の子どもとのコラボレーションによる「復興のためのファンファーレ」、「復興の歌」の作曲・演奏を行っ

た。さらに、文化庁庁舎における「Artsin Bunkacho」(H28.3.9～6.30)開催の他、小学生を対象とし、日本の伝統文化体験である「日本舞踊」のワークショップを実施するなど、芸術による地域活性化・復興支援等に資する取組を数多く実施した。

平成29年度においても、福島県郡山市で人材育成プログラムを実施するなど、引き続き、地方とのネットワークを活かした取組を行っていくこととしている。

- 創立130周年記念事業について、単なる記念式典だけでなく(式典だけでなくも)、美術・音楽・映像等トータルで藝大らしいパフォーマンスをしていただきたい。
 - 国際化・グローバル化において、文部科学省からの数値目標ではなく、質的な国際化が必要ではないか。藝大全体のビジョン(藝大憲章のようなもの)をご検討いただきたい。
- (平成28年3月17日 第60回経営協議会)

(東京藝術大学130周年記念事業の実施)

平成29年は本学の創立130周年であるが、これまでの130年の歴史を振り返るのみならず、その業績を現代の視点から改めて見つめ直すとともに、現代における芸術の在り方、未来に向けた芸術の果たすべき役割等を考察する絶好の機会と位置付け、本学のこれまで培ってきた資産と人材が一堂に会し、130周年のために企画された特別プログラムである「スペシャルプログラム」をはじめ、平成29年6月から約半年をかけて様々なプロジェクトを展開していくこととしている。

また、10年先のビジョン、あるいはもっと先の将来として、芸術の姿を見据えながら、本学のあるべき姿を提示していくプロジェクトとして、「NEXT GEIDAI TEN プロジェクト」を実施することとし、『オール東京藝大』という理念のもと、卒業生や保護者の方との交流を深める等、具体的なアクションプランを展開することとしている。

また、普段目にすることができない作品や特別公演等を通して、幅広い層に芸術に触れる機会を提供することで、国際的なアーツの発信拠点としての本学をアピールしていくこととしている。